

2025年
サンパウロ国際映画祭
正式出品

The Deepest Space in Us

本当のことは
言えなかった

嘘でも
特別だった

福地桃子

寛一郎 中川龍太郎

兒玉通 遊屋慎太郎 緒形敦 長友郁真

川島鈴通 諫早幸作 田中奈月 拾木健太 久藤今日子

朝倉あき／筒井真理子

監督・脚本 竹馬靖具

エグゼクティブ・プロデューサー：本間恵、河野正人 企画・プロデュース：菊地陽介 ラインプロデューサー：本田七海

原案：中川龍太郎 音楽：冥丁 撮影：大内泰 録音・監音：伊豆田康明 美術：島智哉 助監督：平波良

ヘアメイク：藤原玲子 スタイリスト：石橋万里 制作担当：中島正志 音響効果：内田雅巳 編集：山崎祥

宣伝プロデューサー：伊藤敦子 宣伝美術：石井勇一（OTUA） スチール：水津惣一郎 予告編制作：松田朋子（Tommy Gnosis）

制作プロダクション：レプロエンタテインメント 宣伝：ミクルヴォイス 配給：日活

©「そこにきみはいて」製作委員会

近くて遠いわたしたちは、何かが変わる予感がしていた
監督 竹馬靖具×原案 中川龍太郎が描く 新たな詩的リアリズムの世界

＃そこにきみはいて

11.28 fri

× @sokokimi_movie

G

映倫

澄明な詩的リアリズムで綴られる、 どんな言葉でも名付けられなかった感情のかたち

大切な存在との“出会い”と“喪失”

それぞれの孤独を抱えた者たち。アロマンティック・アセクシュアルであり、恋愛というものに実感を覚えられないまま、唯一の理解者と思えた相手との結婚を決めた女性。親友を愛したまま、彼女と“別のかたち”で生きることへ懸けたが、自らの内にある激しい欲望の渇きを隠して自死した男性。社会的な成功を手に入れながらも、ある葛藤を抑圧させて強権的に振る舞う親友。それぞれの孤独を抱えた三人の男女が、すれ違いながらも必死につなごうとする関係は、“生と死”を超えてどこへ向かうのか――

主演を務めるのは注目の実力派俳優、**福地桃子**。是枝裕和監督作『ラストシーン』でも絶賛を浴びた彼女が、本作では当て書きされたヒロイン・香里を演じる。香里と特別な絆を結ぶ健流に、**寛一郎**、さらに原案の詩人で映画作家の**中川龍太郎**が俳優としても参加。彼の盟友であり、作品ごとに新たな側面を見せ続ける**竹馬靖良**が監督・脚本で映画化。

個人の内に秘められた痛みは、誰にもわからない。
だが、決して理解しえない他者の痛みに、
それでも向き合おうとする姿勢を、この映画は差し出す。

Story

海沿いの街を旅する香里(福地桃子)と健流(寛一郎)は、恋人というより、どこか家族のようだった。だが入籍が近づいたある日突然、健流は自ら命を絶つ。お互いにとって一番の理解者だと信じていた香里はショックを受け、健流と出会う以前のように他人に心を閉ざす。そんな中、香里は健流の親友であったという作家・中野慎吾(中川龍太郎)を思い出し、彼の元を訪ねる。健流の知らなかった一面を知るために、ふたりは街を巡り――

福地桃子

寛一郎 中川龍太郎

兒玉遥 遊屋慎太郎 緒形敦 長友郁真

川島鈴遥 諫早幸作 田中奈月 拾木健太 久藤今日子

朝倉あき／筒井真理子

脚本・監督：竹馬靖良 エグゼクティブ・プロデューサー：本間憲、河野正人 企画・プロデュース：菊地陽介

ラインプロデューサー：本田七海 原案：中川龍太郎 音楽：冥丁 撮影：大内泰 録音・整音：伊豆田康明 美術：島智哉 助監督：平波直

ヘアメイク：藤原玲子 スタイリスト：石橋万里 制作担当：中島正志 音響効果：内田雅巳 編集：山崎梓 宣伝プロデューサー：伊藤敦子

宣伝美術：石井勇一(OTUA) スチール：水津惣一郎 予告編制作：松田朋子(Tommy Gnosis)

制作プロダクション：レプロエンタテインメント 宣伝：ミラクルヴォイス 配給：日活 ©「そこにきみはいて」製作委員会

<https://sokokimi.lespros.co.jp> ✕ @sokokimi-movie @sokokimi-movie

本作には、フラッシュバックに繋がる／ショックを受ける懸念のあるシーンが含まれます。鑑賞をご検討の際には、公式HPをご確認ください。

注目の実力派俳優
福地桃子 × 寛一郎



11.28 fri

ヒューマン・トラストシネマ渋谷ほか
全国順次公開 #そこにきみはいて

スペシャルポストカード付き
ムビチケカード発売中!
¥1,600(税込)

【公開応援プロジェクト】
クラウドファンディング
サポーター募集中
2025年11月27日まで

